

NISEの研究活動

… 研究体制 ……………

研究活動を組織的に行うために、各年度の研究計画を立案するとともに、進行管理等を行う研究チームと研究班を設けています。研究チームと研究班は、以下の5チームと10班で構成され、研究課題に応じたチーム、班を構成し研究を推進しています。

令和2年度研究チーム、研究班一覧

研究チーム		チーム代表	チーム副代表
各障害種別を通じて、国の重要な政策課題に対応する研究チーム	インクルーシブ教育システムに関する研究チーム（インクルーシブ教育システムチーム）	星 祐子	柳澤 亜希子
	特別支援教育における教育課程に関する研究チーム（教育課程チーム）	横倉 久	北川 貴章 若林 上総
インクルーシブ教育システムの構築に向けて地域や学校が直面する課題に対応する研究チーム	インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究チーム（理解啓発チーム）	久保山 茂樹	伊藤 由美
	交流及び共同学習の充実に関する研究チーム（交流及び共同学習チーム）	牧野 泰美	坂井 直樹
	地域におけるインクルーシブ教育システムの推進と課題に関する研究～地域実践研究の5年間の取り組みから～チーム（地域実践の成果と課題チーム）	横尾 俊	—
研究班		班長	副班長
障害種別専門分野の課題に対応する研究班	視覚に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（視覚班）	金子 健	土井 幸輝
	聴覚に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（聴覚班）	山本 晃	宇野 宏之祐
	知的障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（知的班）	横尾 俊	涌井 恵
	肢体不自由のある子どもの特別支援教育に関する研究班（肢体不自由班）	吉川 知夫	北川 貴章
	病弱・身体虚弱等の子どもの特別支援教育に関する研究班（病弱班）	土屋 忠之	大崎 博史
	言語に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（言語班）	滑川 典宏	久保山 茂樹
	自閉症のある子どもの特別支援教育に関する研究班（自閉症班）	柳澤 亜希子	棟方 哲弥
	発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）のある子ども又は情緒障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（発達・情緒班）	井上 秀和	廣島 慎一 若林 上総
	重複障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班（重複班）	齊藤 由美子	小澤 至賢
各障害種に共通する課題を研究する班	特別支援教育における教材・教具の活用に関する研究班（教材・教具班）	杉浦 徹	青木 高光

… 研究体系 ……………

研究は、以下の研究体系に基づき、戦略的かつ組織的に実施します。

研究区分	研究の性格（研究期間）
基幹研究	文部科学省との緊密な連携のもとに行う、国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究 その内容等により、以下のとおり区分する。 ・横断的研究: 各障害種別を通じて、国の重要な政策課題の推進に対応した研究（原則 5 年間） ・障害種別研究: 各障害種における喫緊の課題に対応した研究（原則 2 年間）
地域実践研究	インクルーシブ教育システムの構築に向けて、地域や学校が直面する課題の解決のために地域と協働で実施する研究。メインテーマの下に、数本のサブテーマを設定（原則 2 年間）
外部資金研究	科学研究費補助金等の外部資金を獲得して行う研究
受託研究	外部からの委託を受けて行う研究

… 基幹研究 ……………

令和 2 年度に実施する基幹研究の概要は以下のとおりです。

令和 2 年度 研究課題一覧（基幹研究）

研究区分	研究課題名	研究チーム 研究班	研究代表者	研究期間
横断的研究	我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究－地域と学校での主体的取組を支援する「インクル COMPASS」の提案－	インクルーシブ教育システムチーム	星 祐子	平成 28～ 令和 2 年度
	特別支援教育における教育課程に関する総合的研究－新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施に向けた現状と課題－	教育課程チーム	横倉 久	平成 28～ 令和 2 年度
障害種別研究	聴覚障害教育におけるセンター的機能の充実に関する研究－乳幼児を対象とした地域連携－	聴覚班	宇野 宏之祐	平成 30～ 令和 2 年度
	知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発－授業づくりを中心に－	知的班	涌井 恵	令和元～ 令和 2 年度
	小・中学校における肢体不自由のある児童生徒への指導及び支援のための地域資源を活用した授業改善に関する研究	肢体不自由班	吉川 知夫	令和元～ 令和 2 年度
	社会とのつながりを意識した発達障害等への専門性のある支援に関する研究－発達障害等の特性及び発達段階を踏まえての通級による指導の在り方に焦点を当てて－	発達・情緒班	海津 亜希子	令和元～ 令和 2 年度

詳しくはこちら→

NISE WEB サイト > 研究紹介
<https://www.nise.go.jp/nc/study>

… 地域実践研究 ……………

地域実践研究は、平成 28 年度より開始した新しい体系の研究です。地域や学校が直面する課題について、その解決を図るための実践的な研究を都道府県・指定都市教育委員会及び市町村教育委員会から派遣された地域実践研究員と共に地域と協働して推進します。

令和 2 年度に実施する地域実践研究の概要は以下のとおりです。

令和 2 年度 研究テーマ一覧（地域実践研究）

◆ メインテーマ 1：インクルーシブ教育システムの構築に向けた体制整備に関する研究

サブテーマ	研究チーム	研究代表者	研究期間
インクルーシブ教育システムの理解啓発の推進に関する研究	理解啓発チーム	久保山茂樹	令和 2 年度（単年度）
概要：共生社会の形成のためのインクルーシブ教育システムの構築には、全ての教師、子供、地域の理解が重要です。本研究では、10 県市と協働しながら、校内研修による授業等の改善、教育委員会等からの発信、子供たちへの障害理解授業の展開、地域の体制づくり等の実践的な検討を通して、インクルーシブ教育システムの理解啓発を推進するための方法を具体的に提言します。			

◆ メインテーマ 2：インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育に関する実際研究

サブテーマ	研究チーム	研究代表者	研究期間
交流及び共同学習の充実に関する研究	交流及び共同学習チーム	牧野 泰美	令和 2 年度（単年度）
概要：交流及び共同学習は、インクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備に位置付けられるなど重要な教育活動です。本研究では、2 県市と協働しながら、地域のこれまでの取組を整理し、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の連携を進めることで、交流及び共同学習の充実を目指します。			

上記の研究の他に、平成 28 年度から取り組んだ研究について、「地域におけるインクルーシブ教育システム推進の成果と展望に関する研究」としてまとめます。



令和 2 年度の地域実践研究員（長期派遣型）



地域実践研究事業開始式の様子（WEB 活用）

外部資金研究

令和2年度に科研費により実施する研究課題は以下のとおりです。

令和2年度 科研費による研究課題一覧

研究種目	研究課題名	研究代表者	研究期間
基盤研究 (A)	通常学級における子ども・教師の多様性を包含する多層指導モデル実現への地域協働支援	海津亜希子	平成29～令和2年度
基盤研究 (B)	音声情報が付加された触読し易いUV点字による点字学習教材の製法確立と使用感評価	土井 幸輝	令和元～4年度
	多様な子どもの「学び方を自ら学ぶ」能力とプロセスのアセスメント法と支援法の開発	涌井 恵	令和2～4年度
	企業ニーズを踏まえた発達障害学生のキャリア意思決定を支える研修プログラムの開発	榎本 容子	令和2～5年度
	地域と連携・協働したペアレント・メンターの持続的活動を支える研修プログラムの開発	柳澤亜希子	令和2～6年度
基盤研究 (C)	メンター機能を活用した自閉症幼児の家族への早期支援プログラムの開発と効果評価	柳澤亜希子	平成28～令和2年度
	通常学級担任教師と他者との連携に関する研究：特別支援教育連携尺度の開発	竹村 洋子	平成29～令和2年度
	特別支援学校（肢体不自由）における意思決定論的アプローチに基づく授業開発研究	北川 貴章	平成30～令和2年度
	通級による指導における発達障害のある子どもへの自尊感情の支援に関する研究	伊藤 由美	平成30～令和2年度
	中学ことばの教室担当者の役割とあり方に関する研究－教室経営ガイドブックの作成－	滑川 典宏	平成30～令和2年度
	合理的配慮の提供と特別支援教育を推進するための高等学校校内研修プログラムの開発	大崎 博史	平成30～令和2年度
	教科等のねらいの達成を目指した交流及び共同学習の実践方法に関する開発研究	齊藤由美子	平成30～令和2年度
	特別支援学校（知的障害）における体育授業の現状及び充実に向けた実証的研究	村井敬太郎	平成30～令和3年度
	心の病気（適応の困難や発達障害の二次的障害含む）のある児童生徒への自立活動の提案	土屋 忠之	令和元～3年度
	共生社会の担い手を育む場としての幼稚園の役割	久保山茂樹	令和元～4年度
	吃音のある子どものレジリエンスの向上を目指した対話型教育実践プログラムの構築	牧野 泰美	令和2～4年度
	多様な障害種に対応した3Dプリンター教材データベースの構築と活用方法の研究	青木 高光	令和2～4年度
	算数指導に生かせるアイトラッキングを用いた新しい学習評価法の開発	玉木 宗久	令和2～4年度
挑戦的研究（萌芽）	任意の硬さに調整可能な皮膚モデルの製作技術の確立と硬さ識別学習キットの開発	土井 幸輝	令和元～3年度
若手研究	デジタル教科書・教材のためのユーザビリティ技術基盤の確立	西村 崇宏	平成30～令和2年度
	特別支援学級担任の省察に基づく専門性の解明に関する基礎的研究	平沼 源志	令和元～3年度
	自閉スペクトラム症児への子育て支援における階層的支援システムの開発と評価	神山 努	令和元～3年度
研究活動スタート支援	我が国の将来的な労働力不足に対応するための障害者雇用の有用性に関する基礎的研究	宇野宏之祐	平成30～令和2年度

受託研究

令和2年度に実施する主な受託研究課題は以下のとおりです。

令和2年度 受託研究課題一覧

研究課題名	委託機関	研究代表者	研究期間
盲ろう幼児児童生徒の支援体制整備に関する開発的研究	一般財団法人ファーストリテイリング財団	星 祐子	令和元～2年度
魔法のプロジェクトを通じた特別支援教育のICT活用研究	ソフトバンク株式会社	青木 高光	令和2年度

… 刊行物による研究成果等の普及 ……………

NISE では、実施した研究における研究成果は研究成果報告書、サマリー集、ガイドブック、マニュアル等様々な形態で作成し、全て WEB サイトに掲載しています。これらの刊行物は毎年度作成することで、最新の研究成果をできる限り早く教育現場に普及できるようにしています。

研究成果報告書、書籍、リーフレット

NISE では、実施する研究課題が終了した時点で、その成果をまとめた「研究成果報告書」を研究課題ごとに作成し、WEB サイトにも掲載しています。

さらに、NISE の研究成果をよりわかりやすく知っていただくため、研究課題ごとの成果等を簡潔にまとめた「研究成果報告書サマリー集」を毎年度作成し、全国の教育関係機関等に送付するとともに、WEB サイトにも掲載しています。

また、研究成果の中で、教育現場での指導や支援等にすぐに役立つ情報については、活用しやすいようにリーフレット、ガイドブック、マニュアル等にまとめて、市販の書籍として発行しています。

研究成果報告書	視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究 ー特別支援学校（視覚障害）における指導を中心にー 平成 31 年 3 月	
	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究 平成 31 年 3 月	
	研究成果報告書サマリー集（令和元年度終了課題） 令和 2 年 6 月	
書籍	「知的障害のある子どもと共に学ぶ」を考えるー北欧の実践をふまえて (株)ジアース教育新社, ISBN978-4-86371-489-2 平成 31 年 1 月	
	小学校・中学校 通常の学級の先生のための手引き書 ー通級による指導を通常の学級での指導に生かすー (株)ジアース教育新社, ISBN978-4-86371-450-2 平成 30 年 2 月	
	育成を目指す資質・能力を踏まえた教育課程編成の在り方ーアクティブラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化ー (株)ジアース教育新社, ISBN978-4-86371-446-5 平成 30 年 1 月	
リーフレット及び事例集	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究 ーCo-MaMe(連続性のある多相的多階層支援)ー 令和 2 年 1 月	
	自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！ 令和 2 年 5 月	
	言語障害のある中学生の指導・支援の充実のために 令和 2 年 5 月	
	「我が国のインクルーシブ教育システム構築に関する総合的研究」調査報告 平成 29 年 12 月	
調査報告書	インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較 ーフィンランド、スウェーデンと日本の国際比較からー https://www.nise.go.jp/nc/study/intro_res/joint 平成 30 年 3 月	
	障害者の生涯学習活動に関する実態調査 http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b-315.pdf 平成 30 年 3 月	

研究紀要

NISE では、特別支援教育に関する未発表の論文等を所内より募集し、内容審査を行った上で、「国立特別支援教育総合研究所研究紀要」として毎年度発表しています。研究紀要は、WEB サイトに掲載しています。

◆ 研究紀要第 47 巻（令和 2 年 3 月発行）の主な内容

- ①事例報告
 - ・ある自閉スペクトラム症児と教師との関係性形成の過程 ―8か月間の記録から―
- ②調査資料
 - ・小・中学校に在籍する肢体不自由児の指導に関する担当教師の課題意識
- ③研究展望
 - ・我が国の小・中学校内における交流及び共同学習の展望についての一考察
～米国の最少制約環境（LRE: Least Restrictive Environment）施策の展開と多層的な支援システム（MTSS: Multi-Tiered Systems of Supports）の取組から示唆されるもの



特総研ジャーナル

NISE では、研究をはじめとする様々な活動の成果をまとめた「国立特別支援教育総合研究所ジャーナル（特総研ジャーナル）」を毎年度作成し、WEB サイトに掲載しています。

◆ 特総研ジャーナル第 9 号（令和 2 年 3 月発行）の主な内容

- ①令和元年度研究課題一覧
- ②令和元年度研究成果サマリー
- ③研究報告
 - ・精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究（平成 29～30 年度）の成果の普及活動
 - ・知的障害特別支援学級教育内容・方法等に関する全国調査報告
- ④国際会議・外国調査等の報告
- ⑤諸外国におけるインクルーシブ教育システムに関する動向
- ⑥学会等参加報告
- ⑦事業報告
- ⑧特別支援教育の動向
- ⑨N I S E トピックス

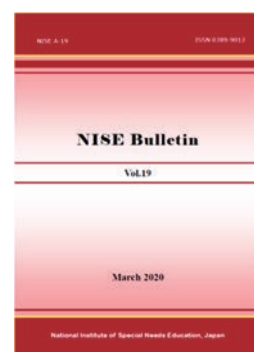


NISE Bulletin

NISE では、研究をはじめとする様々な活動の成果や日本の特別支援教育の政策動向等を英文でまとめた「NISE Bulletin」を毎年度作成し、WEB サイトに掲載しています。

◆ NISE Bulletin Vol.19（令和 2 年 3 月発行）の主な内容

- ・令和元年度研究課題の概要
- ・平成 30 年度研究成果サマリー
- ・国際シンポジウムの報告
- ・トピックス
- ・特別支援教育の動向
- ・国立特別支援教育総合研究所研究紀要第 46 巻の要旨



詳しくはこちら→

NISE WEB サイト > 報告書・資料

https://www.nise.go.jp/nc/report_material